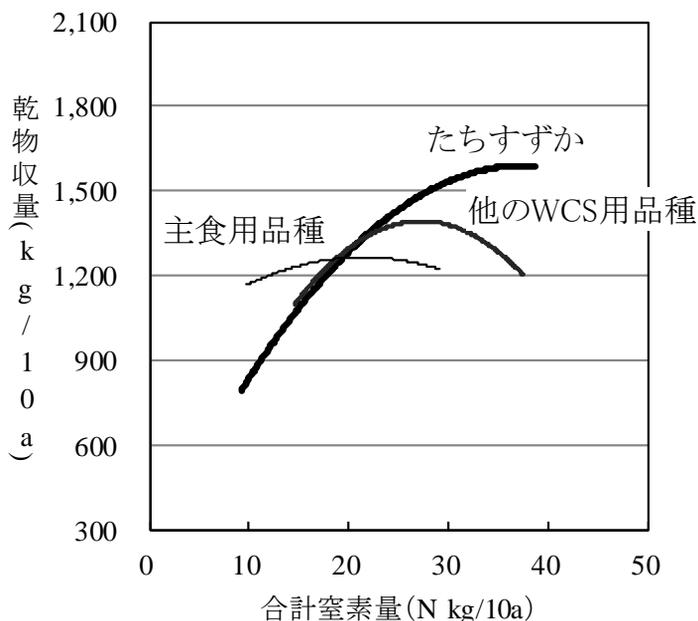


WCS用飼料イネの多収を目指した窒素の施肥方法



飼料イネの収穫風景



窒素量と収量との関係

開発のねらい

牛のえさとなるWCS（発酵粗飼料）用の飼料イネの栽培が、集落営農組織や作業受託組織などで増加しています。このため、大規模経営体が多数の圃場において、飼料イネを安定多収するための窒素施肥方法を確立しました。

新技術の概要

- WCSとして有望な「たちすずか」を10a当たり乾物で1.5トン生産するためには、土壌から無機化する窒素と、堆肥からの窒素、化学肥料からの窒素を合わせた合計窒素量が、30kg必要です。同様に、「ホシアオバ」などの他のWCS用品種では、1.4トン生産するためには26kg、「ヒノヒカリ」などの主食用品種では、1.3トン生産するためには22kg必要です。
- 目標収量を得るために必要な合計窒素量から、土壌と堆肥からの窒素を差し引き、不足する窒素量を化学肥料で施用します。

活用場面

飼料イネを安定多収させることで、耕畜連携が促進され、県内水田の有効利用と畜産業の発展につながります。